

## 学会，研究会での研究発表

### ◆学会・研究会◆

「成長期の左室流入波形計測値について」

第29回日本超音波検査学会(2004年5月・宇都宮)

神宮字広明，大平 清，小沼結花，藤井かおり，矢島晴美，北尾智子，鮎沢 衛(日本大学医学部小児科)

拡張期に僧房弁通過して流入する血流の速度波形は左室充満の状況を反映するため，左室拡張特性の評価に用いられている。成長期の僧房弁通過血流の速度波形(A波，E波，E/A比，E波減速時間)の平均値について報告した。体格に依存があるか，また性別，年齢に依存があるかを検討した。有意差が認められなかったことから対象人数全体(427人)から平均値を求めた。文献など成人の正常値と比較して若年時には僧房弁通過血流の速度波形からみる，左室のコンプライアンスは良好であることが示唆された。

「人間ドックの超音波検査において存在確認が難しかった浸潤性膵管癌の一症例」

第12回日本がん検診診断学会(2004年7月・東京)

北尾智子，大平 清，矢島晴美，小沼結花，長坂富子，藤井かおり，神宮字広明，原島三郎，小野良樹，水口安則(国立がんセンター中央病院)

今回，人間ドックにおいて肝腫瘍を認め原発部位の同定が難しかった，浸潤性膵管がんを経験したので報告した。症例は49歳女性，当会の人間ドック時の超音波において肝臓に腫瘍像を認めたが，超音波では，はっきりしなかった。胃に脱気水を溜めてもらい，再度，超音波で観察したところ，膵臓尾部に36×27mmの腫瘍を認めた。肝転移をきたした浸潤性膵管がんと診断された。検診時は，飲水して頂くことができないため，このような症例では，原発を見つけることは難しいが，検査中は常に腫瘍の存在を念頭におき，体位変換や，多方向からの走査を取り入れ，検査を進める必要があると思われた。

「タンデムマスの臨床医学への応用」

第29回日本医用マスペクトル学会(2004年9月・島根)

石毛信之<sup>1)</sup>，鈴木 健<sup>1)</sup>，大和田操<sup>2)</sup>，北川照男<sup>1)</sup>

1) 東京都予防医学協会，2) 女子栄養大学小児栄養学研究室

Fabry病はGlobotriaosylceramide (GL3) を分解する $\alpha$ -Galactosidase A蛋白( $\alpha$  GalA)の欠損あるいは障害によって生ずる糖脂質蓄積症であり，本症の多くは腎機能や心機能が低下し重篤な症状を呈する予後不良な疾患である。われわれは，タンデム質量分析計(MS/MS)を用いて尿GL3を測定する本症のマス・スクリーニング法を開発し，今回その方法と成績について報告した。健常者と有症状の本症患者の尿中総GL3値は著明な差がみられ，MS/MSを用いた尿中総GL3測定による非侵襲的な本症のマス・スクリーニングが可能と考えられた。一方，一部無症状群においては患者と確定されているにもかかわらず尿中総GL3値が低い症例も経験しており，尿中総GL3定量によるスクリーニング検査では発見されない症例もあることが示唆された。しかし，このような症例においても尿 $\alpha$ -Gal Aタンパク値は健常者と比較して明らかな低値を示しており，尿中の総GL3定量と $\alpha$ -Gal Aタンパク定量の両者を組み合わせることで，より精度が高いスクリーニングが実施可能と期待される。

「低出生体重児におけるろ紙血17 $\alpha$ -hydroxyprogesterone(17-OHP)濃度の継時的変化の検討」

第32回日本マス・スクリーニング学会(2004年11・仙台)  
小西 薫<sup>1)</sup>，原 淳<sup>1)</sup>，桜井恭子<sup>1)</sup>，穴澤 昭<sup>1)</sup>，鈴木 健<sup>1)</sup>，豊浦多喜雄<sup>2)</sup>

1) 東京都予防医学協会，2) 東京専売病院

先天性副腎過形成症の場合，低出生体重児ではろ紙血17-OHP値は高値を示すことが多く，出生から30日を経過してもしばしば陽性基準を上回り，このため採血回数が増え新生児に負担がかかっていると思われる。今回われわれは，低出生体重児589例を対象として出生体重別のろ紙血17-OHP濃度の継時的変化について検討した結果，出生体重が低下するにしたがって17-OHPは高値を示す傾向にあり，陽性基準以下になる日齢も同様に出生体重が低下するにしたがって長期になる傾向にあった。この結果から，十分な全身管理を受けている低出生体重児では日

齢および出生体重を考慮して次の採血日時を決定していけば、余分な採血を省略することができ、新生児の負担軽減に役立つと考えられた。

「マス・スクリーニングで発見されたメープルシロップ尿症 (MSUD) の管理に関する研究」

第47回日本先天代謝異常学会 (2004年11月 宇都宮)

中林啓記<sup>1)</sup>, 和泉美奈<sup>1)</sup>, 山崎宏貴<sup>1)</sup>, 石毛信之<sup>2)</sup>, 穴澤昭<sup>2)</sup>, 鈴木健<sup>2)</sup>, 大和田操<sup>3)</sup>

1) 駿河台日本大学病院 小児科, 2) 東京都予防医学協会, 3) 女子栄養大学

2001年現在, マス・スクリーニングで発見され特殊ミルク事務局が追跡して把握しているMSUDは41例であり, このうち8例が死亡し, 障害児学級に在籍中のものが8例と報告されている。他方, 14例は軽症で健康に発育している。われわれが経過を観察している4例もその範疇に属する症例で診断後の治療も比較的容易であったが, 麻疹罹患などの感染時には重篤な急性発作を認め, 1例で腹膜透析を行った。このような症例の予後は, マス・スクリーニング以前では異なったものになったと推測され, 本症は臨床的異質性が大きく, 他の疾患とは異なり治療に際してはきめ細かい管理基準の設定が必要と考えられた。

「ヘモグロビンA<sub>1c</sub>の方法間にみられた測定値の差異について」

第39回予防医学技術研究集会 (2005年1月・香川県)

吉原律子, 大野直子, 斉藤友良, 木村陽子, 大平咲子, 豊岡千絵, 原島隆史, 高山英二

ヘモグロビンA<sub>1c</sub>は自動分析装置の改良などにより, 処理能力の優れた免疫法が繁用されるようになった。当会も日本電子JCA-BM9030によるラテックス凝集法を導入することとなり, 従来法 (HPLC法) との比較検討を実施した。基礎的検討の結果は良好で導入に至ったが,  $\Delta$ チェック等により両者間で乖離する検体が頻発し, 健診データが従来法より低値傾向となった。これらの原因を追究していった結果, われわれが以前より問題視していた#C中の未知成分が関与していることが示唆された。われわれは#C補正を基準範囲外のデータについてのみ行ってきたが, 基準範囲内の検体にも未知成分が含まれており, 補正しきれなかった従来法のデータとの差が, その要因の一つであると考えられた。標準物質の値付けは従来からのHPLC法での値を伝達しており, 特異性の高い

免疫法や分離法の改善されたHPLC法が普及している現状にはそぐわないのではないかと。今後はよりstableなヘモグロビンA<sub>1c</sub>を求めるための標準物質の値付けと, それに伴う基準範囲の改定が望まれる。

「ガラクトース血症スクリーニング法の基礎的検討」

第39回予防医学技術研究集会 (2005年2月・高松)

間下充子<sup>1)</sup>, 畑野洋二郎<sup>1)</sup>, 石毛信行<sup>1)</sup>, 笹島 薫<sup>1)</sup>, 穴澤昭<sup>1)</sup>, 鈴木 健<sup>1)</sup>, 大和田操<sup>2)</sup>

1) 東京都予防医学協会, 2) 女子栄養大学

当施設ではガラクトース血症スクリーニングの検査法として, これまで行ってきたペイゲン法に替えて2002年4月より酵素法である「エンザプレートGal-R」(バイエルメディカル社)を導入している。今回, 本法における作業工程を見直すために955件のろ紙血液を用いて固定方法, 溶出方法, 反応時間などを変更した場合の測定値への影響について検討した。その結果, 固定時間は30分~60分まで, 溶出時間は15分~90分までの間に変化はみられず, 蛍光反応ではGalで30分~4時間まで大きな変化はみられなかった。これらの結果により, 土曜日受付検体は月曜日にAP後添加法を用いてその日のうちに測定し, 平日の受付検体は溶出液静置法を, 休日をはさむ場合は当日に固定のみ行うAP後添加法を採用することで, 精度に影響を与えることなく迅速かつ効率の良い検査ができることを確認した。

「当協会における労災2次健診の現状」

第39回予防医学技術研究集会 (2005年2月・高松)

油井敦子, 渡辺聡子, 大平 清, 雄鹿 薫, 高山英二, 三輪祐一

労働者の在職中の脳・心臓疾患の発症, あるいは「過労死」等を予防する対応策として, 2001年4月, 厚生労働省における労災保険2次健診の給付が開始された。当協会においても, 同年6月より労災2次健診を実施し, 動脈硬化性疾患・心臓疾患等の発症リスクを評価し, 医師による指導を行っている。今回, 2003年度の労災2次受診状況について報告を行った。労災2次の検査項目である頸動脈エコー・負荷心電図の有用性を確認したこと, また1次健診と2次健診の検査結果の比較で, 短期間で改善傾向が見られたことから, 受診者の生活にあった継続可能な指導により改善が期待されること等を報告した。

「学校心臓検診における小学4年生検診実施について」

第39回予防医学技術研究集会(2005年2月・高松)

信太彩子, 神宮字広明, 長坂富子, 玉沖弘美, 田島美和子,  
雄鹿 薫, 浅井 利夫(東京女子医科大学第二病院)

学校保健法では小学1年生, 中学1年生, 高校1年生に心電図検査が義務付けられているが, 小学1年生で受診した後は中学1年生まで検査がないことから, 運動量が増える中間学年での心疾患が問題視されている。今回, 複数学年を対象に学校心臓検診を実施し, 受診した児童・生徒の新たに認められた所見から, 小学4年生時の検診実施について検討した。方法は小学1年生, 小学4年生, 中学1年生の2次対象所見と管理決定した所見とその割合について比較を行った。その結果中間学年での心臓検診実施は学校生活をよりよいものにしていく上で必要であると思われることを報告した。

「子宮体がん検診で発見された卵巣がん・卵管がんの細胞像の検討」

第39回予防医学技術研究集会(2005年2月・香川)

古旗 真弓

卵巣がんや卵管がんは, 子宮体がん検診で発見されることがあり, 原発巣の同定が必要である。今回, 内膜細胞診で発見された卵巣がん, 卵管がんの最多組織型である漿液性腺がんの細胞像について検討した。

1993年4月から2003年3月までの10年間で, 子宮体がん検診を契機に発見された, 卵巣がん6例, 卵管がん5例中, 病理組織診断による漿液性腺がんで, 再鏡検可能な卵巣がん, 卵管がん各4例を対象とした。比較対象は類内膜腺がんendometrioid adenocarcinomaのGrade1~3(以下, 類内膜腺がんG1~3)を各々4例用いた。

今回の検討では, 卵巣がん, 卵管がんは腫瘍性背景を伴わず, 主に小型細胞集塊で認められた。卵巣がんでは, 細胞集塊がボール状で観察され, 卵管がんでは, 漿液性腺がんの特徴である乳頭状集塊がみられ, 空胞の出現は少数であった。核径計測の結果から, 卵巣がんの核は類内膜腺がんG3より大きく, 大小不同が著明であった。卵管がんは類内膜腺がんG1・G2とほぼ同大の小型核で, 卵管がん, 卵巣がん鑑別の指標になると思われた。卵管がんの核短径/長径比は平均0.81で類内膜腺がんと比較して, より1に近い値となり有意差が認められたことから, 卵管がんは円形核が主体であることが示唆された。また, 砂粒体の出現は, 卵巣がん, 卵管がんともに半数以下で,

砂粒体の有無は組織型推定の補助診断にすぎないと思われた。

#### ◆著書◆

小野良樹, 大平 清, 矢島晴美, 神宮字広明, 小沼結花,  
長坂富子, 藤井かおり, 北尾智子, 田島美和子: USによる胆嚢・胆管結石の診断. 胆道疾患の臨床, 日本メディカルセンター, 東京: 49-58, 2005.

#### ◆原著◆

Naoko Sugiyama, Yoshiki Ono, Masahiro Ogawa, Iori Gotou, Mitsuhiko Moriyama, and Yasuyuki Arakawa: Hemodynamics in the Portal veins of normal subject and patients with chronic liver disease: changes associated with aging. Nihon Univ. J. MED. 46, 69-84, 2004.

◆関係学会、会議への役職員の参加ならびに協力◆

本会の事業推進に係る学会への参加状況は表に示したとおりである。

開催月	学会名（開催地）＜参加人数＞	開催月	学会名（開催地）＜参加人数＞
2004年4月	第56回日本産科婦人科学会総会・学術講演会（東京）＜12＞	2004年9月	第18回日本臨床細胞学会関東連合会学術集会（茨城）＜1＞
4月	第27回日本消化器集団検診学会関東甲信越地方会消化管造影技術研修（千葉）＜3＞	9月	H.16年度第1回日本臨床スポーツ医学会学術委員会小児科部会（大府）＜1＞
4月	第77回日本産業衛生学会（名古屋）＜6＞	9月	第64回日本消化器集団検診学会関東甲信越地方会（新潟）＜3＞
4月	第101回日本内科学会 総会（東京）＜1＞	10月	第54回、第35回全国学校保健研究大会全国学校保健・学校医大会（郡山）＜2＞
5月	第43回日本消化器集団検診学会総会・附置研究会（札幌）＜2＞	10月	H.16年度日本環境管理学会・室内環境学会合同研究発表会（東京）＜1＞
5月	第77回日本超音波医学会（宇都宮）＜1＞	10月	日本消化器病学会等DDW2004（消化器病関連週間）（福岡）＜1＞
5月	第29回日本超音波検査学会（宇都宮）＜1＞	10月	第20回日本肺癌学会集団検診委員会肺癌集検セミナー（横浜）＜2＞
5月	第60回日本放射線技術学会（横浜）＜1＞	10月	第45回日本肺癌学会総会（横浜）＜2＞
6月	第40回日本小児循環器学会総会・学術集会（東京）＜5＞	10月	第32回、第27回日本マス・スクリーニング学会技術部会（仙台）＜4＞
6月	第77回日本内分泌学会学術総会（京都）＜1＞	10月	第7回香港先天代謝異常学会アジアライソゾーム病シンポジウム（香港）＜1＞
6月	第12回日本乳癌学会総会（小倉）＜1＞	10月	第22回日本消化器集団検診学会部会研究会総会（福岡）＜1＞
6月	第31回日本防衛学会年次大会（東京）＜1＞	11月	第47回日本甲状腺学会学術集会（前橋）＜2＞
6月	第23回日本臨床細胞学会東京都支部学術集会（東京）＜9＞	11月	第6回日本骨粗鬆症学会（さいたま）＜2＞
6月	第46回日本放射線技術学会東京部会セミナー（東京）＜1＞	11月	第47回日本先天代謝異常学会（宇都宮）＜2＞
7月	第12回日本がん検診・診断学会総会（東京）＜6＞	11月	第38回日本側彎症学会（静岡）＜3＞
7月	第39回日本小児腎臓病学会学術集会（熊本）＜1＞	11月	第14回日本乳癌検診学会総会（大阪）＜4＞
7月	第36回日本動脈硬化学会総会（福岡）＜1＞	11月	第37回日本婦人科腫瘍学会学術集会（東京）＜1＞
7月	第36回日本婦人科腫瘍学会学術集会（広島）＜1＞	11月	第43回日本臨床細胞学会秋期大会（東京）＜6＞
7月	日本放射線技術学会放射線撮影分科会乳房撮影ガイドライン・精度管理個人評価試験（堺）＜1＞	11月	全国給水衛生検査協会全国水質検査研究発表会（東京）＜1＞
7月	第45回日本臨床細胞学会総会（東京）＜6＞	11月	第16回日本超音波医学会関東甲信越地方会学術集会（東京）＜12＞
8月	第46回日本人間ドック学会（名古屋）＜6＞	11月	第13回日本婦人科がん検診学会学術集会（東京）＜4＞
9月	第12回国際内分泌学会（リスボン）＜1＞	12月	第17回日本性感染症学会（東京）＜1＞
9月	第29回日本医用マススペクトル学会年会（出雲）＜2＞	12月	日本総合健診医学会日本総合健診施設協議会研修・交流会（東京）＜3＞
9月	第64回日本消化器集団検診学会関東甲信越地方会（新潟）＜1＞	2005年1月	第33回日本総合健診医学会（大阪）＜3＞
9月	第25回日本食品微生物学会総会（東京）＜2＞	2月	第37回日本消化器集団検診学会関東甲信越地方会放射線部総会（東京）＜5＞
9月	第21回日本心電学会学術集会（京都）＜2＞	2月	第12回胸部CT検診研究会大会（岡山）＜2＞
9月	第36回日本臨床検査自動化学会大会（横浜）＜2＞	3月	第69回日本循環器学会総会（横浜）＜1＞
		3月	第14回日本乳癌画像研究会（横浜）＜4＞
		3月	臨床検査技師等講習会（東京）＜1＞

本会の事業推進に係る各種会議に出席した状況は表に示したとおりである。

開催月	学会名（開催地）＜参加人数＞	開催月	学会名（開催地）＜参加人数＞
2004年5月	厚生省がん克服戦略研究事業森山班胸部CT計算機診断支援会議（徳島）＜1＞	2004年10月	予防医学事業推進関東甲信越地区会議（水戸）＜7＞
5月	全衛連通常総会（東京）＜3＞	11月	全衛連運営研究協議会（東京）＜3＞
8月	中央会技術運営会議（東京）＜3＞	11月	全衛連関東地方協議会定例会議（東京）＜2＞
9月	厚生省がん克服戦略研究事業森山班胸部CT計算機診断支援グループ会議（徳島）＜2＞	2005年3月	全衛連通常総会（東京）＜2＞
		3月	中央会医師協議会（鳥取）＜1＞

本会の事業推進に係る研修会、講習会への参加状況は表に示したとおりである。

開催月	学会名 (開催地) <参加人数>	開催月	学会名 (開催地) <参加人数>
2004年4月	食品衛生指定検査機関協会残留農薬分析法報告会(東京)<2>	2004年12月	原子力安全技術センター第2種放射線取扱主任者免状に係る講習(東海村)<1>
4月	東京都簡易専用水道検査機関協議会総会(東京)<4>	12月	日本科学機器団体連合会全科展 in 東京 2004 科学技術総合展(東京)<2>
4月	SMBC コンサルティング新入社員ビジネスマナーと仕事の進め方(東京)<1>	12月	全国給水衛生検査協会認定水道水質検査員研修会(川崎)<1>
4月	NPO 入浴施設衛生管理推進協議会レジオネラ対策シンポジウム(東京)<1>	12月	NPO 入浴施設衛生管理推進協議会レジオネラ対策シンポジウム(東京)<1>
4月	SMBC コンサルティング新入社員ビジネスマナーと仕事の進め方(東京)<4>	12月	全国給水衛生検査協会全国簡易専用水道検査研究発表(東京)<1>
5月	食品衛生指定検査機関協会「超臨界抽出分析法」見学実習(横浜)<3>	12月	日本作業環境測定協会作業環境測定基準・作業環境測定評価基準改正係説明(東京)<1>
5月	東京都立産業技術研究所放射線安全取扱技術(東京)<2>	12月	厚生労働省(関東信越厚生局)検査精度管理研修会(さいたま)<3>
5月	日本総合健康施設協議会総会(東京)<1>	12月	放射線障害防止中央協議会放射線安全管理講習会(東京)<1>
5月	SMBC コンサルティング総務アシスタントの基礎実務(東京)<1>	12月	東京都保健医療公社都成人病検診従事者講習会細胞診従事者講習会(東京)<5>
5月	厚生労働省がん克服戦略研究事業森山班胸部CT 計算機診断支援会議(徳島)<1>	12月	21世紀職業財団パートタイム雇用管理実務セミナー(東京)<1>
6月	LH700 シリーズカスタマートレーニング(東京)<1>	12月	CTテクノロジーフォーラム(東京)<1>
6月	日本臨床衛生検査技師会関東甲信地区免疫血清検査研修会(軽井沢)<2>	12月	衛生管理者講習会(東京)<1>
6月	東京都臨床衛生検査技師会末梢血液像実技講習会(東京)<1>	12月	心理相談専門研修(東京)<1>
6月	全国給水衛生協会関東甲信越支部総会・研修会(水上)<1>	12月	THP 実務向上研修会(トレーナー)(東京)<2>
6月	Agilent Technologies フレッシュマンカラムセミナー(東京)<1>	12月	コンピュータシステム研究会(東京)<1>
6月	神奈川県支部作業環境測定実習(横浜)<1>	12月	健康診断機関事務職員講習会(東京)<2>
6月	東京都細胞検査士会研修会(東京)<10>	2005年1月	自己決定を支援するSATカウンセリング～元気で輝ける日々を応援する～(東京)<2>
6月	東京消化器内視鏡技師研究会(東京)<1>	1月	原子力安全技術センター第2種放射線取扱主任者免状に係る講習(東海村)<1>
7月	先天性代謝異常等検査技術者研修会(東京)<2>	1月	都立産業技術研究所「接着剤・建材のシックハウス対策と最近の潮流」(東京)<2>
7月	全国給水衛生検査協会総会(東京)<5>	1月	管理者(課長クラス)基礎研修コース(藤野町)<1>
7月	日本保安用品協会放射線安全技術講習会(東京)<2>	1月	都立産業技術研究所「接着剤・建材のシックハウス対策と最近の潮流」(東京)<1>
7月	キャノン眼科機器セミナーデジタル時代の眼底検査(東京)<9>	1月	衛生管理者講習会(東京)<2>
7月	東基連 特定科学物質等作業主任者技能講習会(東京)<1>	1月	日本産業廃棄物処理振興センター特別管理産業廃棄物管理責任者講習(東京)<1>
7月	日本医療保険事務協会診療報酬請求事務能力認定試験(東京)<1>	1月	NEC 個人情報保護法対策セミナー(東京)<1>
7月	産業医学振興財団産業医学専門講習会(大阪)<1>	1月	東京プレストミーティングマンモグラフィ撮影技術研修会(東京)<2>
7月	管理者(課長クラス)基礎研修コース(藤野町)<2>	2月	学童腎臓病検診研究会(東京)<5>
7月	東京都医師会指導医のための教育ワークショップ(東京)<1>	2月	予防医学技術研究会(高松)<10>
7月	キャノン眼科機器セミナーデジタル時代の眼底検査(東京)<2>	2月	全国業務研修会(静岡)<4>
8月	日本食品衛生協会食品の安全行政の現状と国際基準への対応(東京)<1>	2月	学童腎臓病検診研究会(東京)<4>
8月	食品衛生登録検査機関協会「検査施設責任者研修会」(東京)<1>	2月	産業保健指導(東京)<1>
8月	原子力安全技術センター第2種放射線取扱主任者免状に係る試験(東京)<2>	2月	全国給水衛生検査協会認定水道水質検査員実技研修会1(12月受講の続き)(東京)<1>
8月	衛生管理者講習会(試験9or10月)(東京)<1>	2月	食品衛生登録検査機関協会「業務管理研修会」(東京)<1>
8月	総合精度管理事業に基づく講習会(基本コース)(東京)<4>	2月	ジーエルサイエンス水質セミナー「前処理と最新水質分析技術」(東京)<1>
8月	生化学研修会(東京)<5>	2月	バリアンテクノロジージャパンリミテッドユーザーズスクール(原子吸光ファーンズコース)(東京)<1>
9月	全国給水衛生検査協会飲料水検査技術講習会「ISO17025認証取得」(千葉)<2>	2月	日本食品衛生協会シンポジウム「健康な生活環境の設計に向けて」(東京)<2>
9月	全国給水衛生検査協会簡易専用水道認定検査員講習会(大阪)<1>	2月	日本産業廃棄物処理振興センター特別管理産業廃棄物管理責任者講習(東京)<1>
9月	日本食品衛生協会残留農薬等のポジティブリスト制の内容と政府の取組(東京)<1>	2月	胸部CT 検診研究会大会(岡山)<2>
9月	日本乳腺甲状腺超音波診断会議(大阪)<2>	2月	日本乳癌画像研究会(横浜)<4>
9月	東京都保健医療公社都成人病検診従事者講習会子宮がん検診従事者講習会(東京)<4>	2月	VDT健康診断業務講習会(東京)<6>
9月	胸部CT 検診研究会東京チェストカンファレンス特別講演(東京)<3>	2月	生理機能検査講習会(東京)<1>
9月	衛生管理者講習会(試験)(東京)<1>	3月	医師、診療放射線技師等専門講習会(東京)<2>
9月	ぐんまマンモグラフィ向上委員会ぐんまマンモグラフィ技術講習会(前橋)<1>	3月	キャノンX線間接ミラーカメラの現状と今後に関する報告会(東京)<2>
9月	日本乳癌画像研究会セミナー(横浜)<3>	3月	労働安全衛生管理協会有機溶剤作業主任者技能講習会(東京)<1>
9月	労働者の疲労蓄積度チェックリスト活用セミナー(東京)<2>	3月	厚生労働省健康局水道課水道における耐塩素性病原微生物検査に関する研修(和光)<1>
9月	健康機関向け個人情報保護講習会(東京)<3>	3月	全国給水衛生検査協会認定水道水質検査員実技研修会2(12月受講の続き)(大阪)<1>
9月	全国情報統計講習会(熊本)<4>	3月	日本食品衛生協会食品衛生特別講演会(東京)<1>
10月	管理者(課長クラス)基礎研修コース(藤野町)<1>	3月	感染症腸炎研究会総会(東京)<3>
10月	NPO 入浴施設衛生管理推進協議会レジオネラ対策シンポジウム(東京)<2>	3月	全国給水衛生検査協会簡易専用水道検査機関登録申請標準文書説明会(東京)<2>
10月	管理者(課長クラス)基礎研修コース(藤野町)<2>	3月	日本作業環境測定協会研修会(千葉)<1>
10月	全国学校保健研究大会全国学校保健・学校医大会(郡山)<2>	3月	労働安全衛生管理協会有機溶剤作業主任者技能講習会(東京)<3>
10月	東京都立産業技術研究所分野別専門研修「放射線測定の基礎」(東京)<1>	3月	東京都保健医療公社都成人病検診従事者講習会細胞診従事者講習会(東京)<6>
10月	東京都多摩がん検診センターマンモグラフィ講演会(東京)<1>	3月	全国給水衛生検査協会簡易専用水道検査精度管理(東京)<2>
11月	日本公衆衛生協会スクリーニング精度管理センター先天性代謝異常内分泌疾患マスキング(東京)<1>	3月	NEC 個人情報保護法対策セミナー(東京)<2>
11月	全国給水衛生検査協会全国水質検査研究発表会(東京)<2>	3月	厚生労働省科学研究費補助金第3次対がん土屋班会議(東京)<1>
11月	東京都簡易専用水道検査機関協議会研修会(東京)<4>	3月	乳房健康研究会ミニウォーク&ランフォープレストケア(東京)<1>
11月	東京都保健医療公社都成人病検診従事者講習会細胞診従事者講習会(東京)<3>	3月	医師講習会(東京)<2>
11月	健診事後措置支援業務研究会(東京)<1>	3月	臨床検査技師等講習会(東京)<1>
11月	技術研修会(東京)<1>		

本会の事業推進に係る各種学会、研修会、委員会等への協力は表に示したとおりである。

学会・委員会・研究会等の名称	協力者・協力部
日本小児科学会名誉会員、日本腎臓学会名誉会員、日本小児腎臓病学会名誉会員、日本小児腎不全学会名誉会員、日本糖尿病学会学術評議員、第10回国際先天代謝異常学会名誉会長、国際PKU諮問委員会委員、日本マス・スクリーニング学会監事、特殊ミルク共同安全開発委員会委員長	北川 照男
家族計画国際協力財団理事、日本小児科医会理事、日本小児循環器学会倫理委員会委員、東京都医師会心臓検診判定委員会委員、予防医学事業中央会事務局長	山内 邦昭
労働衛生機関評価制度評価指導員、東京都健康保持増進機関連絡協議会監事、東京都産業保健健康診断機関連絡協議会監事、予防医学事業中央会企画委員会委員	山元 健治
日本予防医学事業中央会常任技術委員、日本臨床細胞学会評議員、日本臨床細胞学会教育委員会委員、日本臨床細胞学会細胞検査士資格更新委員会委員、日本臨床細胞学会東京都支部代表幹事、日本臨床細胞学会東京都細胞検査士会代表幹事、日本細胞診断学推進協合理事、日本細胞診断学推進協会細胞検査士会監事、東京都成人病検診管理指導協議会研修委員会委員、医療関連サービス振興会衛生検査所調査指導委員、北里大学医療衛生学部非常勤講師	武智 昭和
日本消化器集団検診学会理事、日本がん検診・診断学会理事、日本総合健診協議会理事、日本高齢消化器病学会名誉会員、日本消化器病学会評議員、日本超音波医学会評議員、日本総合健診学会評議員、日本消化吸収学会評議員、日本成人病学会評議員	小野 良樹
関東産業健康管理研究会幹事、健康開発科学研究会理事、日本産業衛生学会代議委員、埼玉産業保健推進センター産業保健相談員	三輪 祐一
日本臨床細胞学会東京都細胞検査士会幹事	杉山田隆男
日本臨床細胞学会東京都支部幹事・東京都細胞検査士会幹事	楠 奈々子 吉田志緒子
東京都臨床衛生検査技師会病理、細胞診研究班幹事	石山 功二
レンサ球菌感染症研究会幹事	天野 祐次
日本性感染症学会評議員、食品衛生指定検査機関協議会技術検討委員会委員、感染性腸炎研究会幹事	市瀬 正之
日本マス・スクリーニング学会評議員、予防医学事業中央会生化学小委員会委員	松本 勝
日本マス・スクリーニング学会理事・評議員	鈴木 健
日本マス・スクリーニング学会評議員、日本マス・スクリーニング学会技術部会運営委員	穴澤 昭
予防医学事業中央会共有化専門委員会血液ワーキンググループリーダー、予防医学事業中央会教育研修専門委員会生化学検ワーキンググループ委員、全国労働衛生団体連合会参考値検討委員会委員	高山 英二
簡易専用水道検査技術委員会委員	佐藤 秀世
予防医学事業中央会教育研修専門委員会尿検査ワーキンググループ委員	白石 一美
日本超音波検査学会評議員・編集委員、日本総合健診学会超音波専門委員	大平 清
市谷超音波カンファレンス事務局	南澤 京子
東京胃会世話人	富樫 聖子
日本消化器集団検診学会関東甲信越地方会技術部会世話人	佐藤 清二
日本放射線技術学会学術委員会「胸部CTMD検診マニュアルの作成班」委員、胸部CT検診研究会技術部委員、平成16年度厚生労働科学研究費補助金・第3次対がん総合戦略研究事業「新しい検診モデルの構築と検診能率の向上に関する研究」土屋班：CTスクリーナ部門会議委員	中村 義正
東京都放射線技師会第3地区地区委員	瀧野 勝彦
第114回日本細胞学会細胞検査士養成講習会の開催に協力、第45回日本細胞学会細胞検査士教育セミナーの開催に協力、第30回細胞診断学セミナーの開催に協力、日本臨床細胞学会指導医資格認定試験に協力、日本臨床細胞学会細胞検査士資格認定試験に協力	細胞病理 診断科
フェニルケトン尿症親の会関東支部大会の開催に協力、平成16年度日本マス・スクリーニング学会初心者研修会で講義、平成16年度国際協力機構(JICA)の「新生児マス・スクリーニング」コース研修で講義	小児スクリー ニング科
第80回予防医学事業中央会尿検査技術研修会に協力、第26回国際寄生虫予防指導者セミナーの開催に協力、第7回国際寄生虫対策ワークショップに協力	一般検査科
食品衛生指定機関検査研修会の開催に協力、感染性腸炎研究会の開催に協力	生活環境科
第26回国際寄生虫予防指導者セミナーの開催に協力、第7回国際寄生虫対策ワークショップに協力	生理機能科